

華語国際特別集会  
メッセージアウトライン  
(2014年2月14日ー16日)

**主題：召会の内在的な意義**

標語

三一の神を命として経験した成果は召会であり、  
召会は住まいとしての御父の家、拡大のための御子のぶどうの木、  
行動のためのその霊の子供です。

召会の一は三一の神にある信者たちの一であり、  
召会の建造は、わたしたちが牧養する道を取って、  
愛の中でキリストを人に供給する生活をする必要とします。

© 2014 *Living Stream Ministry*

御父の家

聖書：ヨハネ 14:1-3, 6, 10-11, 20, 23. 1:4, 14, 16. 11:25

- I. ヨハネによる福音書における啓示によれば、三一の神を命として経験した成果、神聖な結果は召会です——ヨハネ 10:10 後半. 11:25. 14:2-3. 15:1. 16:20-21。
- II. ヨハネ第 14 章の中心思想は、わたしたちが神の中へと信じ、それによって神の中へと入らなければならないということです——ヨハネ 16:1 :
- A. 神を信じることは客観的ですが、神の中へと信じることは主観的です。主観的に信じることは、わたしたちを神の中へともたらしめます。
- B. 主の中へと信じることによって、わたしたちは彼の中へと入って彼と一になり、彼にあずかり、彼がわたしたちのために完成したすべてを享受します—— 3:15。
- C. キリストの中へと信じることを通して、わたしたちは彼と有機的な結合を持ち、わたしたちの存在は彼の中へと浸し込まれて、両者は有機的に一となります—— 15:4-5。
- III. 御父の家とは、三一の神が（肉体と成ること、十字架、復活を通して）ご自身を信者たちの中へと造り込み、完全に彼らとミングリングされ、彼らを建造して有機体とならせ、彼の住まいまた表現とすることです——ヨハネ 14:2-3, 23 :
- A. 第 2 章 16 節で、「わたしの父の家」は地上での神の住まい、宮を指しています。宮はイエスの体の予告、あるいは象徴であり、この体は復活の中で拡大されてキリストのからだとなりました—— 19-22 節。
- B. 第 14 章 2 節における「わたしの父の家」はキリストのからだ、すなわち神の家としての召会です——エペソ 1:22-23. 1 テモテ 3:15. エペソ 2:21-22。
- C. 御父の家とは、手順を経て究極的に完成された神と、彼の贖われ、再生され、造り変えられた選びの民とで構成された、神性と人性の合併です——ヨハネ 14:20。
- D. 御父の家には多くの住まいがあります—— 2 節 :
1. 多くの住まいはキリストのからだの多くの肢体であり、このからだは神の宮です——ローマ 12:5. 1 コリント 3:16-17。
  2. キリストにあるすべての信者は、神の建造（御父の家）における住まいです。この建造はキリストのからだであり、すべての住まいはキリストのからだの肢体です——エペソ 1:22-23. 2:21-22. 5:30. 1 コリント 12:27。
- E. 「あなたがたのために、場所を用意しに行く」とは、主が場所を用意し、贖いを完成し、わたしたちのために道を開き、立場を作って、わたしたちを神の中へと入らせることです——ヨハネ 14:2-3, 6 :
1. 死と復活を通して、主イエスは道を舗装し、場所を用意して、わたしたちが神の中へともたらしめられるようにしました—— 20 節。
  2. 死と復活を通して、主イエスはわたしたちのために神の御前で、また神の中で立場を用意しました。このようにして、彼はわたしたちのために神の中に場所を用意しました—— 2-3, 6 節。
  3. 神の中にある立場は拡大されて、キリストのからだの中にある立場となります——ローマ 12:4-5. エペソ 5:30. 1 コリント 12:27 :

- a. 神の中に立場、場所を持たない者はだれも、キリストのからだ、すなわち御父の家、神の住まいの中に場所を持ちません——エペソ 1:22-23. 2:21-22。
  - b. わたしたちはみなキリストにある信者として、神の中の場所、からだの中の場所を持っており、今やキリストの死と復活を通してわたしたちのために用意された場所に生きるべきです——ヨハネ 14:2-3, 20. I コリント 12:27。
- F. 主が来て神を人の中へともたらずこと、彼が行って人を神の中へともたらずこと、この来ることと行くことによって、彼は神を人の中へと建造し、人を神の中へと建造して、神の家を建造します——ヨハネ 1:14. 10:10 後半. 14:2-3。
- G. 神の御子、主イエス・キリストは、その霊により彼の死と復活を通して、有機体、召会を建造しつつあり、それは彼のからだまた御父の家であって、三一の神と彼の選ばれ贖われた人とのミングリングによって生み出されます—— 7-24 節。
- H. 御父の家は、御父と御子とその霊を伴い、贖われた選びの民を絶えず訪問することによって建造されます—— 23 節。
- I. 御父の家は三つの段階にあります。すなわち、神が肉体と成った段階、キリストが彼の信者たちと共に復活させられ、建造されて召会となった段階、究極的完成の段階、すなわち新エルサレムです—— 2:19-21. 啓 21:2-3, 9-10。
- IV. わたしたちは、御父の家としての召会の中に生きることの内在的な意義を見る必要があります——ヨハネ 14:2-3, 23 :**
- A. 御父の家としての召会の中に生きることは、命としての三一の神の中に生きることで— 1:4. 5:26. 6:53. 11:25. 14:6。
  - B. 御父の家としての召会の中に生きることは、光の中に生きることで— 1:4. 8:12。
  - C. 御父の家としての召会の中に生きることは、復活の中に生きることで— 11:25。
  - D. 御父の家としての召会の中に生きることは、恵みと実際の中に生きることで— 1:14, 16-17. 14:6. 16:13。
  - E. 御父の家としての召会の中に生きることは、神聖な栄光の中に生きることで— 17:22-23。
  - F. 御父の家としての召会の中に生きることは、祈りと礼拝の家の中に生きることで— 14:13. 15:7, 16. 16:23-24. 4:23-24。
  - G. 御父の家としての召会の中に生きることは、牧養の生活をすることで— 10:10-11, 15-17. 21:15-17。
  - H. 御父の家としての召会の中に生きることは、神の建造の中で、神の建造のために生きることで— 2:19-21. 14:23。
  - I. 御父の家としての召会の中に生きることは、一を守るために、究極的に完成された霊の神聖で奥義的な領域の中に生きることで— 7:39. 14:16-20. 16:33. 17:11, 21, 23。
  - J. 御父の家としての召会の中に生きることは、手順を経て究極的に完成された三一の神と、贖われ再生された三部分から成る信者たちとの、神性と人性の合併の中に生きることで— 14:10-11, 20。